

昭和54年度定期総会開かる

山下善平元教授が記念講演

風薫る五月二十七日(日)午前十一時三十分より、母校大講義室で昭和五十四年度定期総会が開かれた。恩師・滝澤、赤木、熊沢、梅林の四先生をはじめ、約五十名の会員諸氏に出席していただいた。

辻静夫氏(大19回)の司会により総会が始まり、議長に岡田久司氏(大3回)を、議事録記録者に田中実氏(大20回)を選出した。岡田久司会長の挨拶の後、六議題の審議に入った。

(1)昭和五十三年度事業報告(小山幹事)、(2)昭和五十四年度事業計画(古市幹事)及び会計監査報告(辻村監事)、(3)役員改選(副会長、理事及び監事を選出後、新会長 岡田芳次郎氏(専一)、再任)の挨拶があった。引きつづき、評議員及び幹事を決定した。(4)昭和五十四年度事業計画(小山幹事)、(5)昭和五十四年度事業報告(小山幹事)はいずれも別表の様承認された。(6)基金については、下記の様に、(イ)基金経過報告(嶋林庶務幹事)、(ロ)基金状況(嶋田会計幹事)、(ハ)基金運用規程(岡田委員長)の三件について、報告審議がなされいずれも承認された。なお、基金運用委員会への希望として、三翠化学会及び農芸化学科のシンボルカラー、シンボルマークを設定したらどうか、そのために広く公募したらどうかとの発言があり、積極的に検討、実現化に努力するとの見解が出された。

「蛍の光」に深い感銘 総会後愉快にビールパーティ

総会終了後、山下善平先生(三重大学農学部)と12年卒、元三重大学教授・農学部昆虫学研究室、現在三重県自然科学研究会(会長)に、「蛍の光」と題する講演をしていただいた。先生の自然を愛し、自然とわけ昆虫との対話を念願され、情熱をこめて研究された蛍の発光に関する成果のエキスを、またとみられない素晴らしい、そして貴重なカラー・スライドを駆使され、自然の妙理を門外漢の私共にもわかり易く、諒諒としかも淡淡と説明いただき、出席者一同非常に深い感銘を受けた。一時閑余の講演では飽きたらず、先生への質問の大洪水がおこり司会者が嬉しい悲鳴をあげていた。

講演終了後二時より会場を三翠化学会へと移し、嶋林庶務幹事(大16回)の司会のもと、会長挨拶、赤木先生の首領による乾杯の後ビールパーティに入った。三翠化学会では初めての試みであったホステスの参加もあって、懇親の宴は大いにあつた。また、あつたという間の二時間、名残を惜しむつも、緑したたる東海の「」を肩を組みながら一同大合唱後、再会を約して散会した。まことに有意義な一日であった。

三翠化学会

(題字は稲川先生)

第11号
昭和54年9月1日発行
三翠化学会
津市上浜町1515
三重大学農芸化学科内
電話/津(0592)32-1211
振替/名古屋59345
印刷/株式会社ある

- 副会長 嶋田協(専三)
福田映(大1)
理事 渡辺和己(専一)、
中川潔彦(専二)、田中秀志(大3)、渋谷明(大4)、
高橋孝雄(大6)、今井正之(大11)、杉崎護(大16)、
田中実(大20)、中世古幸信(大25)、長瀬和雄(専一)、
東支部長、別府宏(専一)、東海支部長、西村謙二(専一)、
三重県庁支部長、倉田三郎(専一)、三重教員支部長)
- 監事 若林生(専一)、
辻村恒(大3)、
幹事 嶋林幸英(専一)、
古市幸生(大13)、小畑仁(大15)、小山司朗(大20)、
浅井和夫(大27)。
- 評議員 今西勝(専一)、
佐々木敏雄(専二)、奥田孝夫(専三)、岡本正雄(大1)、
深尾治郎(大2)、岡田久司(大3)、裁本義雄(大4)、
水谷栄三(大5)、豊田治男(大6)、渥美道正(大7)、
藤本公三(大8)、今井滋(大9)、伊藤道子(大10)、
林真栄(大11)、今西隆隆(大12)、岡田勝宏(大13)、
館行生(大14)、庭田勝弘(大15)、池山洋久(大16)、
藤井靖史(大17)、内藤茂三(大18)、辻静夫(大19)、
坪井一夫(大20)、田中忠(大21)、古川公明(大22)、
谷田孝雄(大23)、加藤伊陽子(大24)、田中完爾(大25)、
吉岡孝一(大26)、中北隆也(大27)、駒田洋(大学院)



新任のご挨拶 岡田 芳次郎

去る五月二十七日、津市母校の大講義室において開催された昭和五十四年度総会において、再度会長に推挙されました。

願ひますれば、三翠化学会が創立されたのは、今を去る六年前、前会長嶋林教授のなみなみならぬ御尽力と、関係各位の献身的な御力添えと、会員諸兄の御協力により、現在に到ったもので御座います。身素より浅学非才本会会長の重責を再度にわたり御引受けすることは、誠に心苦しく存じて居る次第で御座いますが、一旦御引受け致しましたら、皆様の御支援と御協力により、この重責を完遂致したい所存で御座いますので、何卒よろしく御願ひ申し上げます。さて、既に御案内申し上げましたとおり、本年三月には学部卒業生は、才二十七回を迎え、専門学校三回と併せて三十周年を向え、卒業生の教約九〇〇名に達しました。誠に意義ある年にあたり、三翠化学会の組織強化の一助として、昨年の総会において「三十周年記念」募金事業が決定せられ、現在募金運動が昭和五十四年十二月末日を目途に続行中であり、既に目標額三百万円に対し一九三万円の御協力を得ましたことは同慶至極に存じます。目標達成まで、深甚の謝意を表します。

また、息会員各位の絶大な御理解と御支援を伏して御願ひ申し上げます。

甚だ簡単で御座いますが、これをもちまして、会長就任の御挨拶と致します。

昭和53年度三翠化学会事業報告

- 昭和53年 4月2日 東海支部設立、第一回総会
5月1日 会報第8号発行
5月15日 役員、評議員会(第1回)
5月21日 総会(名古屋市、全通名古屋会館)
7月17日 役員、評議員会(第2回)
8月31日 会報第9号発行
9月29日 基金募金実行委員会(第1回)
12月12日 役員、評議員会(第3回)及び基金募金実行委員会(第2回)
- 昭和54年 3月15日 役員評議員会(第4回)
3月31日 会報第10号発行

昭和54年度三翠化学会事業計画

- 昭和54年 4月20日 役員会(第1回)
5月21日 役員会(第2回)、評議員会(第1回)及び基金運用委員会(第1回)
総会(津市、三重大学農学部)
7月 役員会(第3回)、評議員会(第2回)
7月 基金運用委員会(第2回)
7月 会報第11号発行
12月 役員会(第4回)、評議員会(第3回)
12月 基金運用委員会(第3回)
- 昭和55年 3月 役員会(第5回)、評議員会(第4回)
3月 基金運用委員会(第4回)
3月 会報第12号発行

昭和53年度三翠化学会決算報告

項目	金額(円)
収入の部	
前年度繰越	89,160
会費	749,955
雑収入(含利息)	43,000
計	882,115
支出の部	
会報印刷費(8, 9, 10号)	330,000
郵送通信費	179,230
会議費	79,468
事務費	146,360
基金事業立替	46,800
こうより補助	30,000
計	811,858
差引残高(次年度繰越)	70,257

昭和54年度三翠化学会予算

項目	金額(円)
収入の部	
前年度繰越	70,257
会費	650,000
雑収入(含利息)	51,800
計	772,057
支出の部	
会報印刷費(11, 12号)	250,000
郵送通信費	200,000
会議費	100,000
事務費	100,000
支部設立補助	20,000
予備費	102,057
計	772,057

(イ)募金事業経過報告
一、昭和五十三年度総会(五三・五二)で「基金制度」が認められ、三〇〇万円の募金に着手することとなった。
二、五三・七・一七 役員、評議員会を開催し、基金募金委員会(役員、評議員、支部長及び会長指名による若干名から構成)を組織するとともに、実行委員会を選出した。
三、五三・八・三一 三翠化学会九号で総会報告とともに基金制度の発足、募金の着手を全会員に通知連絡した。
四、五三・九・二九 実行委員会開催。基金募金の具体的方法を検討した。その結果、(a)卒業年次別に、個人当りとクラス当りの募金目標標準額を設定、(b)各卒業年次より代表者(基金募金委員)一名を選び、目標額達成のための協力、募金の具体的展開法について依頼することとなった。(c)事務、会員各位の御理解と御協力を御願ひ申し上げます。
既に、関東支部、東海支部、三重県庁支部、三重県教職員支部と四支部が設置され、夫々活発な活動が行われて居りますが、未結成の地域におかれても、結成の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。
最後に、稲川先生、長瀬先生の御冥福をお祈り致し、全国各地において御活躍の会員各位の御健康と益々の御発展を祈念し、御健康と益々の御発展を祈念します。未筆ながら、三翠化学会運営のため、日夜御心労を煩わして居る大学当局の嶋林先生を始め諸先生の御苦勞に対し、深甚の謝意を表します。

務処理上、会計幹事(嶋田、今井(滋)、古市)庶務幹事(嶋林、今井(正)、田中)それぞれ三名を選んだ。十月一日、依頼状発送、つづいて十一月十一日、基金募金の具体的方法と募金の推進方を重ねて依頼した。

五、五三・十二・十二 役員、評議員、基金募金委員会を開き、基金運用委員会について討論した。その結果、「五四」年五月迄は暫定的に基金募金委員会が兼ねる事となった。
六、五四・三・一五 役員、評議員会、再度基金運用委員会につき白熱討論の後、次の様な結論を得た。「五四」年二月三十一日迄は、基金募金委員が暫定的に基金運用委員会を兼ねる。募金事業終了の時点即ち五月一日から、三翠化学会基金運用委員会と正式な基金運用委員会が発足する。しかし、運用委員会の規程については、昭和五十四年度総会に提案討議する。

七、五四・四・一 三翠化学会一〇号で基金基金に関する中間報告等を掲載。
なお、総会後六月と十一月を重点的な募金月間として積極的に運動する。

追記
五四・六・二五 三翠化学会役員会で理事の業務分担が決定された。基金担当には、中川(潔)、田中(秀)、今井(正)が選ばれた。これを受けて、六月二十九日基金担当理事に加えて庶務幹事、会計幹事出席のもと基金募金の推進方について協議した。

(ロ)募金中間報告
一、五四・一・一七現在 約一七分は四面に記載)

三翠化学会基金について 総会第6議題に関連して

三三万円 (二八七名分)
二、五四・五・二四現在 約一七五万円 (三九〇名分)
追記 五四・八・七現在 約一九三万円 (約四〇〇名分)

(イ)三翠化学会基金運用規程
一、三翠化学会記念事業基金の運用のために基金運用委員会(以下委員会と云ふ)を置く。
二、委員会の組織及び運営は次の通りとする。
(一)基金の運用は委員会にばかり決定し、これを総会に報告する。但し基金運用に関する重要事項については総会に付議する。
(二)委員長は三翠化学会会長が当り、委員は委員長が委嘱する。委員会には庶務及び会計担当委員並びに監事(各若干名)を置く。
(三)委員会は必要に応じ委員長が招集する。
三、委員会は記念事業に関する事項の審議及び基金の運用に当る。

記念事業とは次に掲げる事項とする。
(一)三翠化学会の組織強化のための援助
(二)農芸化学科学生への記念品の贈呈など
(三)その他三翠化学会に関する諸事業への補助

この規程は昭和五十四年五月二七日より施行する。

○出費多端の折柄恐縮に存じますが、基金募金の件よろしくご協力いただきます様御願ひ申し上げます。また、基金の運用に関しましては、ご意見をお聞かせ願ひ申し上げます。誠に御願ひ申し上げます。

(署名者氏名54・1・8・8・17分は四面に記載)

支部だより

関東支部 四月二日の夕べ 地上二百米に集合

関東支部は、一、二年に一回の割合で、支部総会を開き、飲

今年も、四月三日に、新宿副都心、三井ビル五十四階(地上

当初計画時は、会員出席者七十人も延長しましたが、未だ時

クラス会だより

大卒卒業20周年で豊橋に集う



奈良先生を囲んで

昭和七回生は、本年をもって卒業二十周年となり、東西から

報告をします。七月八日、亀山ゴルフクラブにて行なわれ、三

三翠化学会の皆さんお元気ですか。私は貧乏暇なしで、教育

やスポーツ競技など、盛り沢山の行事にキャンパスを中心とし

わる立場にある人達にとってもいろいろと考えさせられる言葉



(福田実行委員長より優勝杯を受ける伊佐氏)

好企画続く 遊びに徹する東海支部

遊ぶに徹する東海支部

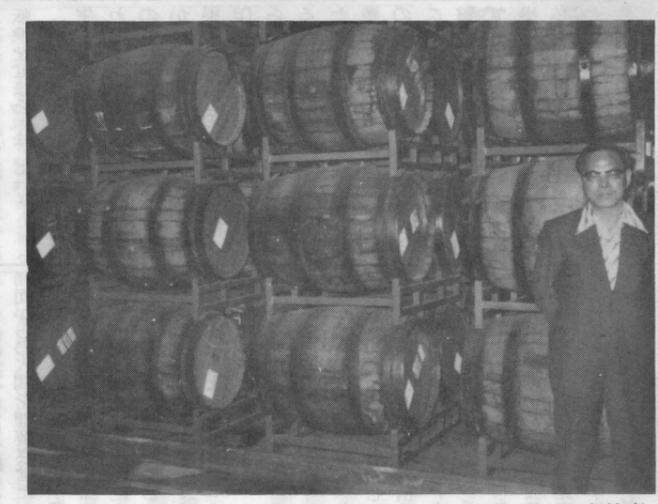
アメリカ・ヨーロッパを訪ねて

赤木盛郎

アメリカ・ヨーロッパを訪ねて



デービス市内をパレードする女性群



カリフォルニア・ワインと筆者

